

私の本棚

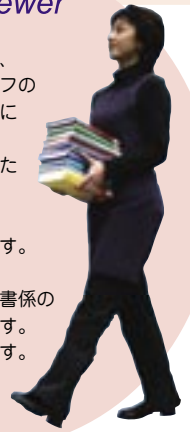
～偶然？ それとも必然？ 不思議で素敵なお本との出会い～

第6回 本間希樹さん

●今回は、本間希樹さんの本棚にお邪魔しました。VERA プロジェクトで大きな研究成果をあげつつある本間さん。ご専門の銀河系のダークマター関係の論文から、石垣島を舞台にした小説、幕末ものと幅広いジャンルをカバーした、その本棚の最後に控えていた至宝の1冊とは？

Interviewer

●このコーナーでは、国立天文台のスタッフのみなさんに、思い出に残った、あるいは最近強い印象を受けた書籍や論文を、天文分野を中心に紹介していただきます。インタビューは、天文情報センター図書係の小栗順子が担当します。よろしくお願いします。



Oguri Junko

■大きな影響を受けた論文 その①

“Possible gravitational microlensing of a star in the large magellanic cloud”

★—最初に登場するのは、初めて発見された重力マイクロレンズ現象についての論文。マッチョ (MACHOs=Massive Compact Halo Objects) です。



▲「論文は、まずは速読。図を見て、ふむふむ、って感じです」。

「学部4年の時に祖父江先生から薦められた論文の1つです。当時ナゾとされていたダークマター問題が、もしかしたら解けたかも!? という論文です。その後、MACHOsだけではダークマター候補として不十分ということが判明したんですが、これをきっかけに私も銀河系の質量に注目してダークマターの研究に参入しました。あれから、早15年。相変わらず正体不明のダークマターを追って研究を続けていますが、ちょうど本格的な研究を始める時期に、これほどの大テーマを扱った論文に出会えたのはラッキーだったと思います。

ただ、この論文の強烈な思い出は別にある、読んだのが忘れもない1993年10月29日。かつてサッカー少年だった私にとって、それがドーハの悲劇が起こった歴史的アンラッキーな日の翌日だったというのは、やっぱりダークな巡り合わせだったのかもしれない(笑)。」



Alock...[et al.] Possible gravitational microlensing of a star in the large magellanic cloud. Nature.365,1993,621-623.

■大きな影響を受けた論文 その②

“First-year Wilkinson microwave anisotropy probe (WMAP) observations:determination of cosmological parameters”

★—そして、WMAPの成果ですね。



「ええ、これ、恐るべき論文なんです。宇宙の年齢やダークマター、ダークエネルギー関連の宇宙論のパラメータを…、誰もが知りたい事をね、一挙に明らかにしちゃったんです。ダークマターやダークエネルギーの正体そのものは、依然として不明なんですが、宇宙モデルの枠組みはこれで決まり。この論文を読んだときは、かなりの衝撃で、正直『負けた、こんなことできるのか〜』って思いましたね。アメリカの凄さと、日本との格差をまざまざと見せつけられたショッキングな論文でした。」

Spergel...[et al.] First-year Wilkinson microwave anisotropy probe (WMAP) observations:determination of cosmological parameters. The astrophysical journal,Supplement series.148,2003,175. およびこれを含むApJS特集号/ ※現在 WMAP 報告書は 2008 年 3 月 7 日に 5 年目の成果報告まで発行。



▲「論文の引用件数も4400件。すさまじい。ぶつう1000件でノーベル賞ものですよ」。

■大きな影響を受けた論文 その③

“Molecular structure of nucleic acids”

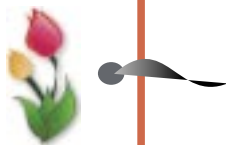
★—これはまた、短い論文ですね。えっ、これでノーベル賞受賞？！



「はい、あまりにも有名な、ワトソンとクリックのDNAの二重螺旋の論文です。短すぎて驚きでしょう。これ、本当に凄い。何とたったの1ページ。これで終わり。しかも、どうです、この手書きっぽいラフな図(爆笑)。でも、この素っ気無い二重螺旋の概念図1枚に歴史的な大発見のすべてが凝縮されています。まあこれは、たいへん極端な例なんですけど、自然の本質を真に衝いた重要な発見というのは、きっとこういう質のものなのではないかと感じられて面白い。こんな痛快無比な論文、一生に一度でいいから書いてみたいですね」。

J.D.Watson,F.H.C.Crick. Molecular structure of nucleic acids:a structure for Deoxyribose nucleic acid. Nature 171,1953,737-738.

二重螺旋の概念図。これなら、わたしでも、ラクに描けそう。ちなみに生命科学にも興味があった本間さんでしたが、「血をみると、もうダメ〜」というわけで天文学へ、とのこと。



思い出の本 その①『夏化粧』

★—なにやら、付箋がたくさん。



「ええ、VERAの石垣島観測所が登場しているページです。これは、石垣島を舞台にしたファンタジー小説なんです。観測所の所員が出てくるくだりもあって、『運用担当の職員が気さくに話してくれた。最近VERAは誤動作するんだ』で、その職員のモデルはどうやら私らしい(笑)。というのは、文春の編集者が大学時代の知り合いで、その関係で池上さんの取材協力をしたんですね。まあ、内容はかなりぶっこんでるんですけど、なんていうかな、これを読むと“島”独特の匂いが甦るというか……。VERAに参加して、石垣島で観測局の立ち上げを一から担当したときの懐かしい思い出がたくさん詰まった一冊ですね。」



『夏化粧』/池上永一著(文芸春秋2002)『やどかりとペットボトル』/池上永一著(河出書房新社2006)『やどかりとペットボトル』は、池上さんの著書ということで読みました。抱腹絶倒です(本間さん)。

思い出の本 その②『竜馬がゆく』『世に棲む日日』 最近ハマっている本 『私本太平記』

★—来ました! 司馬遼。幕末維新モノのスタンダード登場!



『竜馬がゆく』/司馬遼太郎著(文芸春秋・文春文庫1~8 1998)
『世に棲む日日』/司馬遼太郎著(文芸春秋・文春文庫1~4 2003)

「司馬遼太郎の本には時々ハマるんです。当時の血気盛んな若者たちが、有り余るエネルギーを世直しのために注ぐ。今のままじゃ、日本はダメになる〜ってね。これが実に生き生きと描かれている本で、あー、青春だなあ〜と。元気出ますよね。私は母方が下関なので長州びいきなんですけど、VERAの一局は薩摩。でもVLBIネットワークの山口大もパートナーのひとつ。ええ、オチは薩長同盟というわけで(笑)」。

★—こちらは、グッと時代を遡りましたが

「吉川英治も好きなんですけど、じつはこれ、調べものでハマってるんです。2月に男の子が生まれて、家紋が入った産着を作ることになって親父が家系を調べたんですね。父方は佐渡なんですけど、本間姓を辿ると、どうやらルーツは鎌倉期まで遡る。そこで、くわしく調べてみたら、太平記に出ているとわかったんです。で、吉川版の太平記で、どんな登場の仕方をするのかな〜と。ご先祖様、見せ場もあるんですけど、出てきたと思ったら、仇討ちの敵役だったり(笑)。歴史物でこんな読み方を体験できるとは思っていませんでしたね。」



『私本太平記』/吉川英治著(講談社・吉川英治歴史時代文庫1~8、1990)



『ベートーベン交響曲集、ピアノソナタ集、弦楽四重奏曲集』

★—本棚コーナー初の楽譜が「私の一冊に!」♪

「これしかありません。他にはありません。私の本棚にあるもので、どんな本よりも最も価値あるものです。あとの本は要らないです。人類の至宝! 私の一冊はこれで決まりです。」

★—本間さん、熱すぎです。

「いえ、全然(笑)。私は、サッカー少年だったのですがヴァイオリンもやっていて、大学からその後10年くらいは、オケ三昧。で、筋金入りのベートーヴェン・マニアに。いや信者に。彼の音楽は、単純で時にはチープにも聞こえる旋律(の断片?)を元に展開されるのですが、その変奏によって切り拓かれる精神世界があまりにも高く深い。このような手法で人の魂を揺さぶる音楽を一つの構造体として設計し、それを実現できる作曲家は彼しかいない。とくに後期〜晩期のピアノ曲は、彼の精神性がとことん突き詰められ、いらぬ要素を一切そぎ落として、作曲したら、ついにこうなりました! 表向き的美しさはありません。でも、清澄かつ崇高。たった一台のピアノで生み出される音楽が、これほど魂の奥まで染み入る世界を作っていること自体が、この世の奇跡なんです。この話題なら、何時間でもお話ししますよ(笑)」



"Late string quartets and the grosse fuge, op. 127, 130-133, 135" /Ludwig van Beethoven. - Dover Publications, 2001.
「ベートーヴェンの直筆の楽譜は、ラフすぎて写譜職人を困らせたんですよ(本間さん)。」



▲「カミさんがピアノの教師なので、ソナタ集の大判の楽譜を借りて来ました。」

profile

本間希樹

Honma Mareki

准教授(水沢VERA観測所)

1971年テキサス州生まれ。専門は銀河天文学、高精度アストロメトリ。ゴーチェ子午環脇の桜の木の下で。手にもつのは「第九」のスコア。



順司書日記

★それまでの理路整然とした語り口が、一気に相転移したのが「私の一冊(曲)」に話が及んだとき。本間さんは、本当に幸せそうにベートーヴェンを語り、信者としての崇高な義務を果たすべく私に布教しようとする…(私もピアノは多少の心得が・笑)。「人類の至宝と書いたのは、たとえば将来我々が異星人と遭遇して、彼らに地球にはこんなすごい文化があるよと紹介するとき何をしますかって問題。天文学の知識なんか全然。だけど、ベートーヴェンの交響曲を聞かせてあげれば、もうバッチリなんですよ。…そぎ落として、そぎ落として、ついに見えてくる本質を衝いた一頁の論文…ではなくて一条の五線譜。本間さんの熱い語りは続くのでした。」